

米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭

『ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2020』開催決定

【2020年9月16日（水）～27日（日）】

オンライン会場も拡充！会期中は世界の監督とLive Q&Aも展開！

本日、全ラインナップを公開！コロナ短編映画祭とのコラボレーションも！

世界を席巻したポン・ジュノ監督作品、日本プレミアとなるジョニー・デップ出演作品、 『ジョジョ・ラビット』タイカ・ワイティティ監督作品を特別上映

米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭、ショートショート フィルムフェスティバル & アジア（略称：SSFF & ASIA）2020はコロナウイルスの世界的感染拡大を受け、当初予定していた6月の開催を延期しておりましたが、このたび、**2020年9月16日（水）～27日（日）**をメイン日程に、オンライン会場での展開も拡充して開催することを決定いたしました。

これに伴い、オフィシャルコンペティション supported by Sony の各優秀賞、ジョージ・ルーカスアワード（グランプリ）作品は、9月27日（日）に行われるアワードセレモニーで発表となります。また、本映画祭の開催に先駆けて、9月16日（水）には、オープニングセレモニーを開催予定です。

世界112の国と地域から応募された作品の中から厳選された約200作品の上映・配信作品ラインナップを本日オフィシャルサイトにて発表いたします。

<https://www.shortshorts.org/2020>

外出自粛、リモートワーク、ソーシャルディスタンスといった新たな日常生活を経て、私たち映画祭が改めて考えた、クリエイターと、世界と、映画ファンとの新たなつながり方。SSFF & ASIA 2020は「**（ニュー）ボーダレス**」を新たにテーマとして据え、今だからこそ可能となった新しい映画祭を皆さんと一緒に作り上げたいと考えています。

SSFF & ASIA特別上映作品

カンヌ映画祭パルムドール、アカデミー賞4冠に輝いたポン・ジュノ監督によるショートフィルム『支離滅裂』や、日本初公開となるデビッド・リンチ、ジョニー・デップ出演ホラー（監督：サム・ライミほか）『ブラックガイアンドラ』、『ジョジョ・ラビット』のタイカ・ワイティティ監督作品『夜の車』、ジュリエット・ビノシュ主演のコメディ『違反』などの特別上映&配信も決定。



アジア&ジャパンプログラム
特別上映作品

『支離滅裂』（Incoherence）

監督：ポン・ジュノ

韓国/30:00/ドラマ/1994

毎朝ジョギングのたびに牛乳を盗む編集記者、酔って屋外で用を足そうとしたところを警備員につかまった検察官、ポルノ雑誌を読むのが好きな大学教授。こんな3人が社会問題を討論するテレビ番組の出演者として集まった。



インターナショナルプログラム
特別上映作品

『ブラックガイアンドラ』（The Black Ghiandola）

監督：Anthony Conti, Sam Raimi,

Catherine Hardwicke & Theodore Melfi

アメリカ/16:36/ホラー/2017

世界が終わりに向かう中、家族をゾンビに殺された青年が、恋に落ちた女性を命懸けで救う。



インターナショナルプログラム
特別上映作品

『夜の車』（Two Cars, One Night）

監督：タイカ・ワイティティ

ニュージーランド/12:00/ドラマ/2003

ある初恋の物語。田舎のパブの駐車場で親を待つ2人の男の子と1人の女の子。

コロナ短編映画祭とのコラボレーション決定！
外出自粛中に世界のクリエイターが作った映像をオンライン会場で配信

写真左：オーディエンスアワード受賞『隔離』（Quarantine Mood）イタリア

写真右：特別審査員賞受賞『1本のワイン』（1 Bottle of Wine）ドイツ



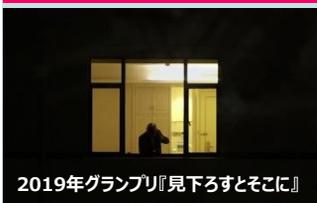
新しい映画祭のカタチ：オンラインで世界とつながる映画祭

【SSFF & ASIA 2020オンラインの展開】

6月4日の「ショートフィルムの日」を皮切りに進行中のオンライントークシリーズでは、引き続き、特別ゲストを迎えたセミナー＆トークイベントに加え、**8月1日（土）いち早くオンライン会場をオープン！**
過去受賞作品を9月15日まで限定公開のほか、今年のラインナップからは、キッズプログラム、U-25プロジェクトなどの作品を順次先行配信いたします。また、今年是一部のアワードを映画祭に先駆けて発表。
国内外の監督や出演者たちと視聴者がインタラクティブに交流できるQ&Aコーナーやオープニングセレモニー、アワードセレモニー、特別イベントのライブ配信など、映画祭が挑戦するオンラインでの展開をどうぞお見逃しなく！



【8月1日（土）～オンライン会場オープン！ 過去オフィシャルコンペティション優秀賞作品10点以上を一挙配信！】



オンライン会場注目作品

【Very Short作品】



『違反』(INFRACTION)

監督：Marion Decoste, Mickaël Nezreg, Manon Ryckelynck, Maiwen Koskas, Jeremie Hannoah, Florian Morelli, Raphael Halle, Aurélie Vanden Borren, Corentin Langou & Remy Martin
フランス/4:17/アニメーション/2019

堅物の交通監視員アマンディーヌは、あらゆる小さな違反を見つけては罰金を課すことに喜びを感じている。そんな彼女の日常に突然予期せぬことが起こる。

【スポーツ特集作品】



スポーツを通して描かれる感動ドラマの数々！

『アン・ガルド！』(En Garde!)

監督：Daniels Joffe/ ラトビア/12:50/ドラマ/2017

大切な人を亡くした後、恐怖と罪悪感に立ち向かいながら男として成長する若きフェンシング選手の物語。

【U-25プロジェクト作品】



『おかえり太郎』

監督：池田 周治/日本/4:50/コメディ/2020

ある日、玄関を掃除をしていたおばあちゃんの目は通りすがりの青年の姿に釘付けに。
おばあちゃんは彼を本当の息子であると勘違いしてしまうのだが・・・



『時を大切に』

監督：二村 遥大/日本/4:50/ドラマ/2019

1等のペア宇宙旅行券を目当てにおじいちゃんと福引会場で待ち合わせをしていた守は、寝坊して遅刻してしまいます。おじいちゃんはその守に怒り、体中からガスを吹きます。すると南極の氷河が溶け出して・・・

【SSFF & ASIA 2020 新テーマ】「(ニュー) ボーダレス」

変化を力に変えていこう。

新型コロナウイルスの世界的な流行で、私たちの社会は大きな変化に直面しています。それらの変化には、決して悪い変化だけではなく、新しいコミュニケーションや表現の扉を開く前向きな変化があると私たちは考えます。

例えば、オンラインコミュニケーションは国境を超えたコミュニケーションの可能性を私たちに感じさせ、動画配信サイトで発信される映像は、プロフェッショナルとアマチュアの境界をなくし、下剋上ともいえるチャンスを生み出しました。

そして、映画を含む文化芸術の場ではウィズコロナに対応した新しい表現のカタチの模索も続いています。それらの中には、模索の一つとして終わるものもあれば、新しいスタンダードへとつながるものもあるでしょう。変化は現在進行形で続いていて、まだ評価がされていないのが現状です。

SSFF & ASIAは毎年世界中で作られるショートフィルムを集め、審査する価値づけ機関としても活動してきました。

今年は世界がコロナウイルスに直面してから約半年のこのタイミングで、新しい表現に目を凝らし、価値ある表現に光を当てる役割をも担います。

6月からの開催延期に伴い、映画祭テーマを「ボーダレス」から「(ニュー) ボーダレス」へと変更した背景には、「その表現がどんな境界(ボーダー)を越えた新しい表現であるか」を考える、というメッセージを込めています。

これまで社会を区切り概念を生み出してきたボーダーを超えること、すなわち、私たちが今まで当たり前のこととして受け入れてきた概念を改めて見直してみること。今年のSSFF & ASIAはショートフィルムを通じて、新しい時代の「(ニュー) ボーダレス」な表現の形を立ち上げます。



<映画祭ポスタービジュアル>



SSFF & ASIA代表 別所哲也コメント

1999年にスタート以来、毎年6月に東京で開催してまいりました映画祭は、今年国際部門が22回、アジア・ジャパン部門は17回目を迎えます。

コロナウイルスの世界的な感染拡大により延期を決定後、9月の開催決定に至るまで、私達はシネマの原点でもあるショートフィルムを通じて世界が繋がり、未来と一緒に築き上げる新たな方法を模索してきました。「(ニュー) ボーダレス」を映画祭としてどんな形で体現できるのか、ぜひ皆さんと一緒に新時代の映画祭を作っていけたらと考えています。



SSFF & ASIAアンバサダー LiLiCoさんコメント

普段触れ合えることのない国と地域の作品から文化や香りを感じ取ることが出来て、これはショートフィルムならではの！
クリエイターみんなのアイデアと才能にゴールはない！
どんどん新しいものに出会えます。
今年はどうな作品が観られるのか、1年で一番萌えるとき。
みんな一緒にスパークしましょうね！

【ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2020 概要】

- 映画祭代表：別所 哲也
 - フェスティバルアンバサダー：LiLiCo (映画コメンテーター)
 - 開催期間：9月16日(水)～9月27日(日)
※オンライン会場も同上の日程に展開
 - 上映会場：オンライン会場および表参道ヒルズ スペースオー、ITSCOM STUDIO & HALL二子玉川ライズ、渋谷ストリーム TORQUE SPICE & HERB, TABLE & COURT 赤坂インターシティコンファレンス(赤坂インターシティAIR)含む 都内複数の会場にて ※開催期間は各会場によって異なります
 - 料金：無料上映 / 無料配信 ※一部、有料イベントあり(予定)
※8月15日(土)より予約開始
 - 一般からのお問い合わせ先：03-5474-8844
 - オフィシャルサイト：<https://www.shortshorts.org/2020>
 - 主催：ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会
- ※上記の記載内容は変更になる場合がございます。

【コロナウイルス感染予防対策について】

新型コロナウイルス(COVID-19)および感染症対策のため、本映画祭では、ご来場の皆様へのマスクの着用・検温、咳・くしゃみエチケットご協力をお願いするとともに、座席間隔の確保、スタッフのマスク着用、アルコール消毒液の設置、ドアノブ・椅子の消毒、定期的な換気を徹底し開催致します。
その他の感染症対策につきましてはWEBサイトに詳細を掲載致します。

<https://www.shortshorts.org/2020/ja/about/>

【上映・配信プログラムの構成】

【公募部門】

● オフィシャルコンペティション supported by Sony



今年から「テクノロジーに裏打ちされたクリエイティブエンタテインメントカンパニー」として、クリエイターの夢の実現を支援するソニー株式会社が、翌年のアカデミー賞短編実写部門への推薦につながるオフィシャルコンペティション（インターナショナル部門、アジア インターナショナル部門、ジャパン部門）をサポートしています。<https://www.shortshorts.org/sony/>

● **CGアニメーション部門** デジタルハリウッド株式会社とコラボレーションによる10年目を迎えた部門。繊細な描写が魅力の作品からエンターテインメント性の高いダイナミックな作品まで幅広いジャンルの作品。またデジタルハリウッドが主催する「デジタルフロンティアグランプリ2020」ベストCGアニメーション賞を受賞した作品や、第92回(2020)米国アカデミー賞短編アニメーション部門ノミネート作品を上映。

● **Cinematic Tokyo 部門** 2017年にスタート。様々な「東京」の魅力を発信するショートフィルムを上映。

● **ノンフィクション部門** 私たちを取り巻く豊かで多様な「日常」や世の中のあらゆる課題まで、世界中の映像作家が社会や人々の営みを切り取り、作り手の眼を通してメッセージをダイレクトに伝えるノンフィクション映像を特集。

● **Branded Shorts部門** 国内外の企業・団体のブランディングムービーを特集。

● **U-25プロジェクト** 2019年に設立。将来有望な映像作家の国内外での活躍を応援すべく、国内の25歳までの監督が制作した作品を対象に、5分以下のショートフィルムを公募。

オフィシャルコンペティション3部門（インターナショナル部門、アジア インターナショナル部門、ジャパン部門）の優秀賞からジョージ・ルーカスアワード（グランプリ）が決定、また、オフィシャルコンペティションの各優秀賞、およびノンフィクション部門の優秀賞、合計4作品が米国アカデミー賞短編部門のノミネート候補作品となります。

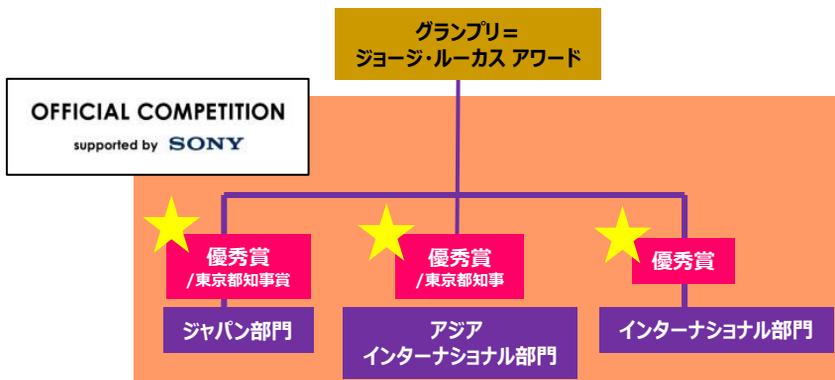
【その他のプログラム】

● **Shibuya Diversityプログラム**：渋谷区はSSFF & ASIAと協力して、“成熟した国際都市”、“ちがいをちからに変える街”の基本構想の普及啓発活動としてダイバーシティとインクルージョンをイメージしたショートフィルムを選定。受賞作含むノミネート作品を一挙上映。

● **Ladies for Cinema Project**：世界の女性フィルムメーカーを応援するプロジェクト。女性ならではの視点で描かれた力強い作品を特集。

● **戦争と生きるカププログラム supported by 赤十字**：赤十字国際委員会 (ICRC) とコラボし、コロナ禍の今こそ、さまざまな“闘い”の最前線にいる人に思いを馳せ、今こそみんなの「生きる力」を支える作品を紹介。

<アワード構成図>



米国アカデミー賞短編部門
ノミネート候補

アカデミー賞公認映画祭として、オフィシャルコンペティション各部門の優秀賞を受賞すると、アカデミー賞の短編部門の参加資格を得ることができます。

<その他のコンペティション（部門）・公募プログラム>



※コンペティション（部門）以外に、応募作品全体の中から、各テーマを表現した最も優秀な作品に、下記アワードが贈られます。

- **地球を救え！ 環境大臣賞**……地球環境に関するテーマ
- **地球を救え！ J-WAVEアワード**……同上のテーマの作品の中からJ-WAVEリスナー審査員が審査
- **Shibuya Diversityアワード**……ジェンダー、民族、人種などダイバーシティをテーマに描く作品
- **観光映像大賞 観光庁長官賞**……国内観光の魅力を表現した映像を映画祭が選定し授与
- **ひかりTVアワード**……ジャパン部門ノミネート監督の中からオリジナル性、将来性などが最も感じられる監督へ贈られる賞

オフィシャルコンペティション supported by Sony 各優秀賞・ジョージ・ルーカスアワード（グランプリ）作品は9月27日（日）に行われるアワードセレモニーで発表となります。また、本映画祭の開催に先駆けて、9月16日（水）には、オープニングセレモニーを開催予定です。

●セレモニーの概要につきましては別途、取材案内状をお送りさせていただきます。

東京都は、「国内外の人々が東京を訪れたいくなる」企画として、SSFF & ASIAと連携して、多彩な「東京」の魅力を発信するプロジェクトを2016年から開始。東京をテーマにしたショートフィルムを世界から公募する「Cinematic Tokyo部門」をスタートしました。

文化でつながる。未来とつながる。

Tokyo Tokyo
FESTIVAL

2020年の映画祭では、引き続きCinematic Tokyo部門の上映および優秀賞（東京都知事賞）を決定するとともに、国際的なスポーツ大会が開催される東京の活気・雰囲気映像で表現し、撮影地となった東京の場所に訪れたいくなるようなショートフィルムを製作する「シネマスポーツプロジェクト」を新たに展開し、去年、世界的なラグビーの祭典が開催された東京を舞台にしたショートフィルムを製作しました。

シネマスポーツプロジェクト 特別製作作品 『This is Tokyo』 本編はSSFF & ASIA 2020 でプレミア公開



東京の魅力を世界に発信！

森崎ウィン（『レディ・プレイヤー1』）とシンガポールトップ女優 ジネット・アウが共演

『This is Tokyo』

監督：鈴木勉

キャスト：森崎ウィン／ジネット・アウ／渡辺裕之

日本 / 16:15 / ドラマ / 2020

2019年秋、ラグビーワールドカップ開催で、街に活気あふれる東京。

シンガポールの企業との提携を進めるチームに抜擢された健人は、来日したクアン社長をアテンドする仕事を任されるが、彼女の冷たい態度に困惑する。二人で東京を観光するうちに、互いの心に小さな変化が生まれ……。…

作品紹介ページ https://www.shortshorts.org/cinemasports_project/
予告編 <https://youtu.be/X9mh-gqbnq0>

ONLINE会場でも公開

シネマスポーツプロジェクト概要

東京都とSSFF & ASIAは、東京で開催される国際的なスポーツ大会をきっかけとしたショートフィルムを製作し、東京の多彩な魅力の一つとして国内外に発信する事業「シネマスポーツプロジェクト」を展開しています。

国際的なスポーツ大会が開催される東京の活気・雰囲気を映像で表現し、撮影地となった東京の場所に訪れたいくなるような作品を目指します。

これまでSSFF & ASIAが輩出してきた監督をはじめとするクリエイターたちの人材を活用し、国内外に東京の魅力を広く浸透させるとともに、映画祭受賞者の認知度向上、本映画祭の魅力向上、若手映像制作者の育成を図ります。

製作作品はSSFF & ASIA 2020でプレミア公開・配信いたします。

ONLINE クリエイターズセミナー 『新聞記者』の藤井道人監督が語るクリエイター向けセミナー



『新聞記者』『ダイヤモンド』の藤井道人監督がセミナーゲストとして登場。ショートフィルムも数多く手がけた監督のキャリアを振り返りながら、インディーズ精神を忘れず、精力的にメジャー映画を作り続ける独自のスタイルや、これからの映画制作を語ります。

■藤井道人（ふじい みちひと）監督プロフィール■

1986年生まれ。日本大学芸術学部映画学科卒業。大学卒業後、2010年に映像集団「BABEL LABEL」を設立。伊坂幸太郎原作『オー！ファザー』（2014年）でデビュー。以降『青の帰り道』（18年）、『ダイヤモンド』（19年）など精力的に作品を発表。2019年に公開された『新聞記者』は日本アカデミー賞で最優秀賞3部門含む、6部門受賞をはじめ、映画賞を多数受賞。新作映画『宇宙でいちばんあかるい屋根』（9月4日公開）が控える。

日時： 9月17日（木）20:00～21:30

料金： 無料

参加方法：映画祭ウェブサイトにて視聴URLを公開いたします。事前予約は不要です。

講師：藤井道人（映画監督）

※講演内容は、当日、若干変更となる可能性があります。

各コンペティション、スペシャルプログラムから注目作品をご紹介します！

2020年アカデミー賞受賞&ノミネート作品を凱旋上映

【インターナショナル部門 特別上映】



【CGアニメーション部門 特別上映】



【アジア インターナショナル部門 特別上映】



【ジャパン部門 特別上映】



【ジャパン部門ノミネート作品】



祝！第92回アカデミー賞短実写部門受賞！
(SSFF & ASIA 2019ベストアクトレスアワード受賞作品)

『向かいの窓』(The Neighbor's Window)
監督：Marshall Curry/20:39/アメリカ/
ドラマ/2019

ONLINE会場でも公開

幼い我が子と夫の面倒に愛想が尽きたアリーは近所に引っ越してきた20代のカップルの部屋が自宅の窓から見えることに気付く。そこからカップルの自由なライフスタイルを「裏窓」風に覗き見る日常が始まった。

第92回アカデミー賞短編アニメーション部門ノミネート

『忘れられない』(Memorable)
監督：Bruno Collet/12:02/フランス/アニメーション/2019

最近、画家のレイは奇妙な出来事を経験している。彼をとりまく世界が変化しているようだ。家具や物、人々からゆっくりと、現実味が消え、バラバラと崩れ去っていく…。

『ブンミおじさんの森』のアピチャートボン・ウィーラセータクン監督作品

『Blue』(Blue)

監督：アピチャートボン・ウィーラセータクン/2008年/タイ・フランス/12:00/
ファンタジー

ある夜、横になるが眠れずにいる女。近くでは舞台の背景幕が自動で転換され、2つの異なる場面が交互に現れる。女が羽織っている青いシートに炎がちらつき始め、眠れないの女を照らした。

深田晃司監督がスマートフォンで撮影

『鳥(仮)』(Birds (working title))

監督：深田晃司/2016年/日本/7:29/ドラマ

窓から明るい光が差し込む部屋で女性が男性を問い詰めている。窓辺には所在なげに座っているもう一人の女性。どうやら男性が別の女性を部屋に誘ったその現場に遭遇してしまったようだ。問い詰められた男性は…。

© 深田晃司映画まつり

森山未来監督作品がジャパン部門にノミネート！

『Delivery Health』(DELIVERY HEALTH (the escort))

監督：森山未来/2019年/日本/20:17/ドラマ

色とりどりの欲望が渦巻く街、東京は渋谷で風俗嬢として働く女性。今夜も客に呼ばれ、ホテルの扉を開けるとそこにいた男は…。後ろめたい二人のぎこちない会話が、歌と踊りに発展していく…

各コンペティション、スペシャルプログラムから注目作品をご紹介します！

【ノンフィクション部門 特別上映】



堀潤が監督
催涙弾や火炎瓶飛び交う香港民主化運動の最前線を追う！

『STAND WITH HK』
監督：堀潤/日本/25:00/ノンフィクション/2020

ONLINE会場でも公開

香港での民主化デモの最前線にカメラを入れた。催涙弾や化学薬品を含んだ放水など警察による圧倒的な弾圧に向き合う若者たちの願いは何なのか。一人一人の声を丁寧に拾った。

【CGアニメーション部門 特別上映】



未来のCGスペシャリスト！
デジタルハリウッド デジタルフロンティアグランプリ2020
ベストCGアニメーション賞受賞

『dro:p』
監督：中川祐/日本/4:12/アニメーション

ONLINE会場でも公開

舞台は日本のような場所。主人公は成長して行く過程で看取した何者かによる負の作用から脱し、回復を求めて回帰する。

【Ladies for Cinema Project 上映作品】



世界の女性フィルムメーカーを応援するプロジェクト
女性ならではの視点で描かれた力強い作品群

『置いてはいけない』(Removals)
監督：Greta Nash/オーストラリア/12:57/ドラマ/
2019

ONLINE会場でも公開

土壇場になって女は引越し業者の男とそのやる気のない息子にピアノ運び出して欲しいと頼む。

【Shibuya Diversityプログラム 上映作品】



人種、宗教、移民、LGBTQ…
世界のDiversityを考えるドラマの数々

『レイラ』(Layra)
監督：Celine Cotran/イギリス/17:36/ドラマ/
2019

ONLINE会場でも公開

60歳のシリア難民レイラはドリームランドアミューズメントパークの清掃員。スケートボードを教えてくれる少年のフェミとの出会いにより彼女の人生が一変する。

【戦争と生きるカプログラム supported by 赤十字】



今こそ“Power of Humanity”
-人類愛の力-を発揮する時。
想像力と思いやりを持って、世界中の生きる力に寄り添おう！

『ウタズメ』(Song Sparrow)
監督：Farzaneh Omidvarnia/デンマーク/
11:43 /アニメーション/ 2019

ONLINE会場でのみ公開

移民集団は、より良い生活を求め安全な国へ行こうと試みている。密かに国境を越えるため冷凍トラックに乗り込むが、氷点下の気温はやがて彼らのより良い未来への希望をも凍り付かせることに…

【令和2年度日本博主催・共催型プロジェクト Discover Beautyシンポジウム】

映画シーンで活躍する映像クリエイターを招き「世界の美から日本の美を考える」シンポジウムを開催。テーマに合わせてSSFF & ASIAが特別にセレクトしたショートフィルムも上映。

日時・詳細は決まり次第「日本博とSSFF & ASIAの主催・共催特別企画」特設サイトにて発表いたします。

URL : <https://www.shortshorts.org/japanculturalexpo/>



令和2年度日本博主催・共催型プロジェクト

【BRANDED SHORTS】

企業・団体がブランディングにおける顧客とのコミュニケーションを目的として制作されるブランデッドムービー。2016年に始まった「BRANDED SHORTS」では世界から集まったブランデッドムービーの上映のほか、ブランデッドムービーに関するイベントを開催いたします。

日程：上映&イベント 9月23日（水）※時間は追ってご案内いたします。

会場：赤坂インターシティコンファレンス the AIR

料金：無料

※実施内容は追ってご案内いたします。



ミュージカルショートフィルム企画コンペティション ファイナリストを発表！

国内に留まらず世界へ日本のエンターテインメントコンテンツを発信し続ける株式会社アミューズとともに、新たな才能の発掘と支援を目的としたショートフィルムの企画を世界公募を行いました。

本日、ファイナリスト5点をSSFF & ASIA 2020ウェブサイトにて発表！

後日発表予定の最優秀企画には、アミューズミュージカルアワードとして賞金のほか、ショートフィルム化するチャンスが贈られます。

<https://www.shortshorts.org/2020/ja/program/amuse.php>



【トルクフットサルコート&カフェ上映会】

フットサルコートを併設するサイクルカフェ「渋谷ストリーム TORQUE SPICE & HERB, TABLE & COURT」で屋外上映&カフェ上映！

「サイクリストフレンドリー」をコンセプトに、自転車通勤をするワーカーをサポートし、趣味や興味を通じて交流できる新たなスペース「渋谷ストリーム TORQUE SPICE & HERB, TABLE & COURT」に併設のフットサルコートで、ショートフィルムの屋外上映会を開催。また、体を内側から磨き、代謝を高めていく（インナーサイクル）場として『スパイス&ハーブ』をテーマとしたメニューを提供するカフェ内のビジョンでも上映を予定しています。映画祭期間限定で「creators cafe」も開催。

映画祭に参加するクリエイターの交流および映画祭の情報発信拠点として、インフォメーションブースを設置し、映画祭について案内するスタッフが常駐します。

日時：①屋外上映会：9月18日（金）～20日（日）、25日（金）～26日（土）
19:30～21:40

※荒天時はカフェ内でのみの上映

②インフォメーションブース：9月17日（木）～26日（土）11:00～18:00

会場：渋谷ストリーム TORQUE SPICE & HERB, TABLE & COURT
（東京都渋谷区渋谷3-21-3 渋谷ストリーム4階／

東急東横線・田園都市線、東京メトロ半蔵門線・副都心線「渋谷駅」C2出口直結）
料金：無料（カフェ利用時は別途費用がかかります。）



※本リリースの記載事項は予告なしに変更になる可能性があります。

【本件に関するお問い合わせ先】

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）

担当：安藤（080-3579-5352）、加藤、武田

TEL：03-6894-3200 / FAX：03-5413-3050 / E-mail：SSFF@ssu.co.jp

ショートショート実行委員会 担当：田中 TEL：03-5474-8201 / FAX：03-5474-8202 / E-mail press@shortshorts.org

【本資料に関する画像については、下記よりダウンロードいただけます】

<https://drive.google.com/drive/folders/1A3IanqbA9DGyhmE-hWxnf4S24sriGfP4?usp=sharing>